

1. 総括

(1) R S Pの事業実施状況に関する自己評価

広島県産業の現状と課題

本県の産業は、製造業を中心とした全国でも有数の工業集積を形成し、我が国の産業を支える生産基地としての役割を果たしてきた。

しかし、近年、経済のボーダレス化、グローバル化により、国際分業化が進展する中、製造品出荷額等は平成3年をピークに減少傾向が続くなど、本県製造業の役割が相対的に低下している。

このため、ものづくり技術などの本県の「強み」を生かすと同時に、バイオテクノロジーなど新規分野も含めた研究開発力の強化を図ることにより、既存産業の活性化及び新たな産業の創出を促進し、本県の産業集積を、国際競争力を持った東アジアにおける研究開発・生産拠点の一つへと転換していくことが大きな課題となっている。

広島県における科学技術振興の取組み

本県では、科学技術振興の積極的な推進により、地域の再構築を実現し、新たな発展メカニズムを形成していくため、「広島県における科学技術振興の基本方向（平成5年11月）」の提言を基に、平成7年3月に策定した県長期総合計画に全県的な最重点施策として「科学技術立県」を掲げ、その具体化に向けた各種施策に取り組んできた。

具体的には、平成4年度に整備した広島中央サイエンスパーク内に、順次、国税庁醸造研究所（現独立行政法人酒類総合研究所）、広島県産業科学技術研究所、広島大学地域共同研究センター、J S T研究成果活用プラザ広島などの産学官の研究機関の立地や整備を実施するとともに、研究開発を自律的に推進するための、県及び県内企業の協力による科学技術振興基金の造成などの基盤整備を行ってきた。このような背景の中で、中核機関である（財）ひろしま産業振興機構（産振構）は、平成8年度からのネットワーク構築型R S P事業に続いて平成11年度から研究成果育成型R S P業務の推進、平成12年度からは「地域プラットフォーム体制」の構築など、効果的・効率的な産学官連携・交流の推進を図ってきた。

また、本県産業の課題を解決し、産業の再生と自律的発展を図るためには、こうした基盤や仕組みなどを基に、大学等に蓄積された研究成果などの知的資源を積極的に移転・産業展開していく必要があり、平成12年11月に策定した「県政中期ビジョン ひろしま夢未来宣言」においては、「研究成果の技術移転の推進」を主要施策として掲げ、産学と行政が連携しながら、県内の大学や広島県産業科学技術研究所における研究成果の民間等への移転・事業化の推進に取り組んできた。

R S P事業の位置付け

本県では、R S P事業（研究成果育成型）をこの「研究成果の技術移転の推進」における先導的な中核事業と位置付け、平成11年度から推進してきた。

R S P事業の推進により、学における研究成果の権利化及び技術移転に関する意識の改革が図るとともに、産学の連携体制の強化と研究成果の移転・活用に向けた活動の活発化と連携拠点としての環境整備を図った結果、大学における権利化の動きや大学発ベンチャーなどへの動きも活発化している。とりわけ、広島大学における特許出願件数は飛躍的に増加してきた。このような地域の知的財産権に関する意識の大変革により、J S T研究成果活用プラザ広島の誘致や広島T L Oの設立につながったものと高く評価している。

(2) 当初目標の達成度

大学等の研究成果の地域産業への展開

R S P事業の育成試験やコーディネート活動を通じ、新規事業志向型研究開発成果展開事業（プレベンチャー事業）や地域新生コンソーシアム研究開発事業などへの橋渡しが数多く成功し、参画する地域企業などへの展開が図られ、大学発ベンチャーが3社生まれるなど、具体的な形として成果が挙がっている。また、産振構に設置している中小企業・ベンチャー支援センターの機能や広島県産業科学研究所に配置している科学技術コーディネータ及び技術振興部所属の特許流通アドバイザーも必要に応じて活用するなど、組織的な事業展開をしてきた。概ね当初の目標を達成したと考える。

TL Oへの発展

平成10年度に設置した「リエゾンひろしま推進会議」の検討結果を踏まえ、RSP事業の推進により、産学官連携に対する大学、産業界の意識の醸成に努めるとともに、平成14年度には「広島TL O設立準備検討委員会」を設置し、TL Oの設立に向けて具体的な活動計画等を検討した。その結果、平成15年4月に、RSP事業の連携拠点機関である（財）ひろしま産業振興機構（以下「産振構」という。）内に広島TL Oを設立するに至った。

平成15年度において、広島TL OとRSP事業の科学技術コーディネータが一体的に活動を展開することにより、RSP事業の成果は広島TL Oへ承継されており、当初の目標は達成した。

広島県産業科学技術研究所の成果展開への活用

RSP事業の取組みにより、研究成果育成プログラムに関するノウハウが産振構に蓄積された結果、産振構が運営する広島県産業科学技術研究所のコーディネータ等へノウハウが承継されており、広島県産業科学技術研究所において実施している文部科学省の「知的クラスター創成事業」の成果展開への活用が期待される。

地域プラットフォーム体制の形成促進

地域プラットフォーム体制の中核的支援機関である産振構における、研究開発から事業化までの一貫した総合的な支援体制の構築に当たり、RSP事業は、研究成果の発掘、育成段階の支援面で重要な役割を果たしており、特に、大学等との連携・交流の強化に大きく寄与した。

（3）地域におけるRSP事業の評価・波及効果

RSP事業の評価

地域共同研究センターの学側コーディネータとの強固な連携体制を構築している広島大学からは、学長自ら「RSP事業のコーディネート活動により、広島大学の特許申請、取得件数が平成11年度から非常に伸びた。」という高い評価と活動に対する感謝の意を示していただいているほか、他の大学等からも同様の評価を得ている。また、産業界においても、RSP事業に対する関心は高く、「事業展開に当たっては、より一層の企業ニーズの把握に努力して欲しい」旨の積極的な意見が出されるなど、地域におけるRSP事業の評価は高い。

RSP事業の波及効果

RSP事業のコーディネート活動は、産学連携や研究成果の社会還元・活用等に係る大学側、産業界側双方の意識改革・気運醸成に大きな効果をもたらした。

特に、大学側においては、RSPの事業期間中に、多くの大学に産学官連携の窓口が整備（例：広島市立大学産学官連携推進室）され、また、地域における産学官連携の推進活動（例：近畿大学工学部産学官連携推進協力会）が盛んになるなど、多くの波及効果が現れている。

地域における産学官連携の魁としての本業務の効果は大変大きなものがあつたと評価している。人的なネットワークも格段に拡大しており、当該業務の特徴であると言える。

（4）今後の展開

広島TL Oを中心とした研究開発コーディネート活動の展開

RSP事業により培った研究開発コーディネート機能を承継し、地域における科学技術の振興と地域経済の活性化に向けた活動を継続して展開していくため、本県では、平成15年4月に「広島TL O」を産振構内に設立し、平成15年度の1年間を通じて、RSP事業の科学技術コーディネータと一体となった活動を展開してきた。

広島TL Oは、地域の産学官の連携・協力体制のもとに運営する、いわゆる“地域型TL O”として、単なる技術移転活動だけでなく、産学官共同研究のコーディネートや技術移転先の事業化支援などの幅広い活動を展開することとしており、本県の産学官連携における中核的機関となることが期待されている。

今後は、この広島TL Oを中心に、地域プラットフォーム体制等、産振構の他機能との連携を図り、研究成果の発掘、育成のみならず、地域企業への技術移転、事業化支援までを行う、総合的なコーディネート体制の構築に努める。

研究成果活用プラザ広島との連携

また、広島TLOにおいては、県内の各産業支援機関などのコーディネータ等との連携によりコーディネート機能の拡充を図ることとしているが、特に研究成果活用プラザ広島の科学技術コーディネータとは、強固な連携体制を構築し、地域産学官の交流促進をはじめ、大学等の研究成果の掘り起こしから育成・活用のための各種支援事業等を一体的に展開することにより、より一層の効率的・効果的なコーディネート活動の推進に努める。

2. 都道府県関連事項

(1) 都道府県が推進する「研究開発コーディネート機能」の整備について

① 総合的コーディネート機能の整備方針

本県では、産業の再生と自立的発展を図るため、『産業活動を支える基盤の整備』を重点プログラムとして掲げ、「研究開発・技術開発拠点の形成」及び「研究成果の技術移転の推進」等の施策展開により、総合的な研究開発コーディネート機能の整備・強化を図ることとしている。(県政中期ビジョン ひろしま夢未来宣言)

具体的には、広島県産業科学技術研究所において、科学技術振興基金を活用した先導的で即効性のある研究開発を推進するとともに、知的クラスター創成事業によるライフサイエンス分野の研究開発に取り組むほか、研究成果活用プラザ広島など、国の研究機関等との連携により、広島中央サイエンスパークを中心とした研究開発の活性化を図っている。

また、広島TLOを中心として、研究成果活用プラザ広島や地域プラットフォーム体制との連携により、県内の大学及び広島県産業科学技術研究所等における研究成果の民間等への移転・事業化を推進している。

② 上記の整備方針におけるRSP事業の位置付け

本県の総合的な研究開発コーディネート機能の整備方針の実現に向けて、RSP事業はその先導的な中核事業と位置付け、5年間推進してきた。

本県の研究開発コーディネートについては、現在、広島TLOを中心に展開しているが、RSP事業は、広島TLOの設立に当たり、大学をはじめとする産学官全体に及ぼす意識醸成の面において、大きな役割を果たしたと言える。

また、今後も、RSP事業により産振構に蓄積された研究成果の発掘・育成等のノウハウは、広島TLOの事業展開及び広島県産業科学技術研究所の成果展開など、本県総合的な研究開発コーディネート機能の整備・強化に大いに役立つものと期待している。

③ 実施体制図

